

小学校 4～6年生 他者意識のめばえ



この時期の子ども

体の発達がさらに進み、体力や運動能力も向上し、自分を客観的に捉えた上で、自己肯定感をもつようになります。一方、個人差も大きくなるため、劣等感をもちやすくなります。また、集団行動に自分から関わったり、遊びなどでは自分たちでルールを決めたり守ったりするようになります。

自己肯定感・自己有用感・他者理解を育むために

- 子どもの長所や得意なこと、努力していることを認め、自信をもたせましょう。
- 子どものよいところを生かし、伸ばしていけるように励ましましょう。
- 友達同士でよいところを素直に伝えられるような声掛けをしましょう。

この時期に身に付けたいこと

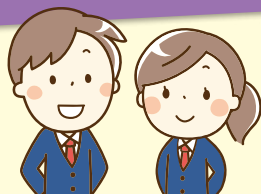
- 健康な体づくりの習慣
- きまりを守り、家庭や学校などでの役割を果たしながら生きていく力(勤勉性)
- 仲間と親しい関係をもてる力(社会性)
- 自分が他人から必要とされていると感じる心(自己有用感)

家庭教育で大切なこと

子どもとの対話を大切にして、子どもが自分の存在を認められるように支える

- 親が手本となり「早寝早起き朝ごはん」の生活習慣を定着させましょう。
- 進んで体を動かすことと心も体も気持ちよくなることに気付かせましょう。
- 学習や運動、手伝いなど様々な経験を積ませることで、「自分にもできる」と自信をもたせましょう。
- 子どもが失敗したり悩んだりしているときは、親がよき相談相手になることで、子どもの人間関係を支えましょう。
- 家族の一員としての役割をもたせることで「自分は家族の中でなくてはならない大切な存在である」と感じさせましょう。

中学生 自分らしさの気付き



この時期の子ども

子どもから大人の世界へ踏み出す大切な時期です。親離れをし始め、友人関係に強い意味を見出します。さらに、親に対する反抗期を迎え、親子のコミュニケーションが不足したり、感受性が強くなったりして、情緒不安定になりやすくなります。

自己肯定感・自己有用感・他者理解を育むために

- 失敗や悩みも受け止めながら、自分は大切な存在であると実感できる機会をつくりましょう。
- 他者と比べずに、自分の長所や得意なことに目を向けさせましょう。
- 様々な価値観に触れさせ、多様な存在を大切にできるよう見守りましょう。

この時期に身に付けたいこと

- 特定の友人との深い人間関係の形成
- 法やきまりの意義の理解
- 他者との望ましい関係の理解
- 人間としての生き方やこれからの自分の進み道について考える力
- 社会の一員として自立した生活を営む力

家庭教育で大切なこと

悩み葛藤する子どもを、温かく見守り、必要に応じて助言する

- 相手の立場を尊重し、思いやりのある接し方を意識させましょう。
- 家の仕事の分担や家庭のきまりについて親子で一緒に話し合い、決めたことを守りながら生活させましょう。
- 自分という存在を改めて見つめ直し、自己を形成していく大切な時期となるので、子どもを人格をもつ一人の人間として認め、接しましょう。
- 親自身の経験を語りながら、テストの点数や結果だけでなく、子どもの適性を踏まえて親子で話し合い、自分の進み道について考える力を育てましょう。

笑顔で子育て

家庭教育で大切なこと

このリーフレットは、現在子育て中の方や、これから親となる皆さんに、見通しをもって、安心して家庭でお子さんと関わっていただけるよう作成したものです。お子さんが生まれてから中学校卒業までの時期に家庭で大切にしていきたいことをまとめていますので、ぜひご活用ください。



「**幼保小中を一貫した教育**」を進めています。

自己肯定感・自己有用感を高め、他者理解を大切にしています。

子どもの成長は一人ひとり違います。

草加市では、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校・中学校が一体となって家庭・地域と連携して子どもたちの育ちを支える「幼保小中を一貫した教育」を進めており、その基盤となるのが家庭教育です。このリーフレットを参考に、これからのお子さんの成長を見通して、ご家庭で大切にしたいことについて考えてみてください。

草加市では、「幼保小中を一貫した教育」を通して、**自己肯定感・自己有用感・他者理解**※を育んでいます。自己肯定感・自己有用感・他者理解は、学習や運動への意欲や、命を大切にする心、思いやりなどへとつながります。
※自己肯定感 … 自分のよさや可能性に気づき、自分らしさを大切にすることができる
自己有用感 … 自分が他の人に役立っている、必要とされていると実感することができる
他者理解 … 他の人のよさを認め、大切にすることができる

子どもの成長には個人差があります。このリーフレットの「この時期の子ども」や「この時期に身に付けたいこと」の内容は目安ですので、**お子さんのことをよりよく知るためのヒント**としてご覧ください。

生まれる前



この時期の子ども

胎児のときから、母親と子の間で心と体の交流が行われています。妊娠4か月頃には光に、6か月頃からは強い音にも反応し始め、母親の心拍や話し声がきこえています。

家庭教育で大切なこと

母親の健康を第一に生活リズムを整える（休息、睡眠、栄養、適度な運動、情緒の安定）

- 育児や家事の分担について話し合い、子育てに必要な知識を得るなどして、これから始まる子育てを具体的にイメージしましょう。
- 子どもの誕生を楽しみにしながら、おなかの子にたくさん語りかけましょう。

0歳～2歳頃 人に対する信頼感 (基本的信頼感)の獲得



この時期の子ども

人の一生で、最も大きな成長をとげ、生きていくための基本的な能力を身に付ける時期です。家族、親戚、地域の方など、自分を守り、自分に関わる身近な大人と接する中で、人への信頼感が育まれます。

自己肯定感・自己有用感・他者理解を育むために

- 自分が受け入れられているという気持ちを育めるよう、食べたい・寝たい・抱っこしてほしいといった子どもの基本的な欲求をできる限り受け入れましょう。
- 子どもが自分でしようとする気持ちを大切に、温かく見守り、必要な時に必要なだけの手助けをしましょう。
- 身近な施設や公園等で同世代の年の子どもも含めた家族間で過ごす時間をつくりましょう。

この時期に身に付けたいこと

- 自分は愛されている、守られていると実感することによる人に対する信頼感(基本的信頼感)
- 自分の気持ちを言葉で発すること
- 自分以外の人の存在が分かること

家庭教育で大切なこと

子どもと向き合って子育てをし、子どもの成長に合わせて生活リズムを整える

- 0歳～1歳頃は、子どもの基本的な欲求はできる限り受け入れてあげるという気持ちで、スキンシップをたくさんとりましょう。
- 親と一緒にやって見せながら、楽しく取り組ませましょう。
- 1歳～2歳頃は、親が見守り、声をかけるなどしながら、身の回りのことを自分でやろうとする経験をたくさんさせましょう。
- 愛情豊かに子どもに接しましょう。親としての自覚をもち、「ありがとう」「ごめんねさい」といった言葉を親が進んで言えるようにしましょう。
- 親以外の大人にも協力してもらいながら育児に取り組みましょう。

※必要に応じて、裏表紙の二次元コードや別紙「子育てを支援する窓口のご案内」をご活用ください。

3歳～6歳頃 自分の感情などを コントロールする力 (自律心)のめばえ



この時期に身に付けたいこと

- 食事やトイレ、着替えなど自分のことが自分でできること
- 自分の思いを表現する力や、相手を思いやる心
- けんかをして子ども同士で話し合うなどして仲直りすること
- 善悪の区別と良心のめばえ

この時期の子ども

遊びを通して様々なことを学び、身体的な成長や運動能力、言語能力、社会性などの面で大きく成長します。自分とは違う他人の存在にも気付き始めます。また、5歳頃になると、現実と空想の区別もできるようになります。

自己肯定感・自己有用感・他者理解を育むために

- 心ゆくまでのびのびと遊ぶ体験を多くさせましょう。
- がんばったことを認め、自分でできた満足感を味わわせましょう。
- 様々な活動に挑戦させ、失敗しても努力したことを認めましょう。
- 子どもはそれぞれ好きなことなどに違いがあることに気がつけるよう、子ども同士でたくさん関わる時間をもたせましょう。

家庭教育で大切なこと

遊びや生活の中で、ほめたり認めたりしながら社会性が身に付くよう手助けする

- 「早寝早起き朝ごはん」の生活リズムをつくるとともに、トイレや着替え、片付けなど身の回りのことを自分でできるようにしましょう。
- 自然や文化にふれたり、様々な人と関わったりするなど豊かな体験をさせましょう。
- 子どもの話をしっかり聞いたり、がんばったことを笑顔でほめたりして、やる気を育てましょう。
- 人に迷惑をかけない、危ないことをしないなど、社会や家庭のルールを親が手本となって示したり、親子で一緒に考えたりしましょう。
- 集団生活では時には我慢することも必要であることを意識させましょう。

小学校 1～3年生 自分から積極的にやってみようとする力 (自主性)のめばえ



この時期の子ども

集団生活などの経験を通して、善悪についての理解と判断や、行動のコントロールができるようになり、小学校生活に適應する基礎ができます。親から離れて、外の世界に関心がもてるようになる時期でもあります。

自己肯定感・自己有用感・他者理解を育むために

- 自分でできるようになったことや生活の中の役割が増えたことを喜び、励ましや応援をしましょう。
- 家庭や学校で周りの人の役に立っていることを認め、実感させましょう。
- 子ども同士のトラブルでは、お互いの思いをていねいに伝え合えるよう支援しましょう。

この時期に身に付けたいこと

- 基本的な生活習慣の定着
- 学校における集団生活への適應力
- 善悪の判断力や規範意識
- 自然や生命を大切にしたり、美しいものに感動したりする心

家庭教育で大切なこと

様々な活動を通して、心と体のバランスの取れたしつけを行う

- 「早寝早起き朝ごはん」の生活習慣を意識させ、意欲的に学習や運動に取り組めるように声をかけ、見届けましょう。
- 社会のルールを守ろうとする意識(規範意識)を育てる大切な時期なので、様々な体験や活動に挑戦させましょう。
- 子ども同士のトラブルは、子どもの言い分をしっかりと聞いた上で、親として冷静に判断し、できるだけ自分で解決させましょう。
- 学校といつでも相談できる関係をつくりましょう。